

イネごま葉枯病抵抗性水稻品種「みえのゆめ BSL」の育成

利用対象：土地利用型農家、普及指導員

「みえのゆめ」は令和元年度の県内での作付面積が約 850ha で、「コシヒカリ」、「キヌヒカリ」に次ぐ作付規模第3位の品種です。多収性で「コシヒカリ」よりも熟期が10日程度遅いことから、作期分散の図れる品種として作付されています。一方、イネごま葉枯病に弱いことがさらなる生産拡大の制限要因となっています。そこで、「みえのゆめ」にごま葉枯病抵抗性を付与した本品種を育成しました。令和4年度より「みえのゆめ」から本品種に全面切り替えられ、一般栽培が開始されます。

表 みえのゆめBSLの生育・収量・品質の調査結果

品種名	出穂期 (月.日)	成熟期 (月.日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	精玄米重 (kg/a)	比較対比 (%)	千粒重 (g)	玄米外観品質 (1-9)	倒伏程度 (0-5)	食味官能評価 (-3~+3)
みえのゆめBSL	8.03	9.11	68	20.9	395	65.4	105	23.9	4.5	0	-0.14
みえのゆめ(比較)	8.03	9.11	71	20.9	400	62.1	100	23.4	4.4	0	-0.46

注) 調査データは三重県農業研究所伊賀農業研究室における平成30年と令和元年の2年間の平均値。4月19日播種、5月10日移植での調査結果。精玄米重、玄米千粒重、玄米タンパク質含有率は1.85mm網上玄米の調査結果で、いずれも15%水分換算値。玄米品質は、1(上上)~9(下下)の9段階評価。食味官能評価は、「コシヒカリ」を基準とした相対評価で、-3(不良)~0(並)~+3(良)の7段階評価。

品種特性（「みえのゆめ」との比較）

- 生育、収量、品質および食味に関連する特性は概ね同等です。
（「コシヒカリ」と比較して出穂期が9日遅く、成熟期が12日遅い中生の品種です）。
- 稈長が短く倒伏しにくいいため、栽培性に優れます。
- ごま葉枯病抵抗性は「強」です（下図）。
- ごま葉枯病が多発する条件で、およそ3割程度多収です。



図 ごま葉枯病検定圃場での発生程度（2017年9月8日撮影）

(A) みえのゆめ BSL、(B) みえのゆめ

お問い合わせ先	伊賀農業研究室 太田雄也	電話 0595-37-0211
	生産技術研究室 農産研究課 松本憲悟	電話 0598-42-6359
	中央農業改良普及センター 磯山繁幸	電話 0598-42-6323
参考になる資料	http://www.pref.mie.lg.jp/nougi/hp/74882027005.htm	